

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児童デイサービスセンターくれよん			
○保護者評価実施期間	R6年10月7日		～	R6年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	R6年10月7日		～	R6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○事業者向け自己評価作成日	R7年1月23日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	面積の広いデイルームを確保し利用している事で、車椅子に乗っている利用者もボール遊びや身体を使った遊びを他の利用者と同様に楽しむ事も出来、大型バギーを使用している利用者や歩行器を使って歩行訓練を行う際にも十分にスペースが確保出来ており、歩行訓練をする利用者との利用者が交錯すること無くそれぞれの活動を維持することが出来る。	デイルームは広く利用者同士がぶつかる事は無いが突発的にパニックになり室内を走ったりする利用者もみえる為、興奮して走っている利用者から距離を取る様に誘導をしたり、当人には寄り添い落ち着かせるように促すなどの対応をしている。ボール遊びやスペースを多く使う遊びをする際には事前に机や椅子を隅に移動する等、職員が意識して行っている。	日常的に遊具や室内のレイアウトを確認しながら利用者の普段利用する遊具は取りやすい位置に配置をしたり、普段利用をしていない遊具に関しては倉庫にしまう等、入れ替えをこまめに行う。長期休みの際にもレイアウトの配置を検討したり、子どもたちが過ごしやすく安全な環境を常に提供が出来る様に職員全員で検討を日々続けていく。
2	志摩市社会福祉協議会内に複数の施設があり、長期休みの行事として本会が運営するお店にて発達の成長に合わせた買い物体験を行ったり、通所サービス事業所の高齢者との合唱や演奏会等を実施するなどの世代間交流を定期的に行っている。	児童デイサービスセンターくれよんが大王地域福祉センター内に併設されている事から、普段から通所サービス事業所の利用者や職員とくれよん利用者が顔を合わせる機会もあり、「ただいま」「おかえり」といった挨拶を行う等の交流が日常的に出来ており、挨拶等を通して交流を図っている。	志摩市社会福祉協議会内には複数の施設がある事から、主に長期休み期間中などに他事業所と連携を取りながら買い物やイベント等の世代間交流を図れるように働きかける。
3	職員の資質・支援の向上、専門知識・技術の強化を図る専門研修への参加、スキルアップに努める機会が日常的に回覧等で周知しており参加を定期的にしていく事が出来る。	積極的に専門研修、課題別研修、外部研修へ参加している。虐待防止・身体拘束等の研修へ参加している。	通常業務を行いながらでの研修参加となる為、全員が同じ研修を同時に受講する事が難しい場合には、受講した職員が受講していない職員やパート職員に内容を伝え業務に生かせるように伝達をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の確保は人数的には出来ているが、見守り支援員としてシルバー人材センター派遣員に協力を要請して見守りを依頼している状況が続いている。放課後利用の際は、利用者の送迎場所や時間が異なるため、利用者全員が揃って施設で滞在できる時間は1時間も満たない状況となっている。	慢性的な専門職員の不足が続いており、見守りをシルバー人材センター派遣員に依頼している為、派遣員の負担を減らす事と利用者の安全を確保することが必要であると考えられる。また、放課後利用時における平均滞在時間が1時間を切る事も多い為、落ち着いた創作活動等は出来ない現状となっている。	シルバー人材センター派遣員の負担をなるべく減らせる様な配置を考え、不足時には他事業所職員にも協力依頼を要請していく。長期休みの際には滞在時間も長時間になるので普段は出来ない活動やイベント等を企画し実施していく。
2	看護師を配置していない為、緊急時における対応(てんかん等)が遅れる事が予想され、処置は出来ない。また、医療的ケアの受け入れは行っていない。	児童デイサービスセンターくれよんが大王地域福祉センター内に併設されており、看護師が大王地域福祉センター内に滞在しているが離れた場所に居る事も考えられる為、緊急時に職員一人が利用者の対応をしている場合には、もう一人の職員が看護師を呼ぶ必要がある。	時間帯によってはくれよん職員が一人の時間帯も有るので、大王地域福祉センター内の職員に声を掛け応援を呼べるように、事前に大王地域福祉センター内にも互いの職員の出勤体制や利用者の利用状況を把握しておき、緊急時には速やかに看護師との連携が取れる様にしていく。
3	面積の広いデイルームを確保し過ごすことでメリットも多いがデメリットとしては部屋ごとに区切られてはならず、騒音が苦手な利用者や静かな環境を好む利用者との分断が難しくなる。	デイルームは広く仕切りが無く、一部屋のみである事から騒音が苦手な利用者に関しては全くの別室、場所を変えての支援となっている為、支援員一人とデイルームとは別の部屋の確保が常に必要な状況となっている。又、デイルームにおいても興奮状態に陥った利用者もその場で落ち着くの待つか、室外に誘導する等の配慮が必要となってくる。	現状、別室で対応している利用者に関してもいつ、どこでパニック状態になるかは分からず、その際支援員一人では対応が難しい場合も有る為、速やかに大王地域福祉センター内の職員に応援を要請し対応を依頼する。デイルームにおいてパニック状態になった利用者も同様に他利用者に危険が及ばない様、必要であれば応援要請をしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	障がい児童デイサービスセンターくれよん
------	---------------------

公表日 R 7年2月3日

利用児童数 16名 (無回答項目あり)

集計日 R 6年10月31日 回答数 10名

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると 思いますか。	8	1		1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1		3		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境 になっていると思いますか。また、事業所の設備等 は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等 への配慮が適切になされていると思いますか。	5	1		4		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっ ていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた 空間となっていると思いますか。	6	2		2		
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に 応じた専門性のある支援が受けられていると思 いますか。	4	5		1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の 提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	1		2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズ や課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサ ービス計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	9	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサー ビスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供す べき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定さ れていると思いますか。	6	3		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われて いると思いますか。	9	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫 されていると思いますか。	5	3		2		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の こどもと活動する機会がありますか。	1	3	3	3		
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、 利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	2		1			
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内 容の説明がなされましたか。	10						

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5		3	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1	1	1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			1	3	4	
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	2		2		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	1				
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3	2		3		
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8						
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5			3		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1	1		6		
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	3		2		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	1		1		
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	7	1				
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	7		1			

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
29	事業所の支援に満足していますか。	6	2			概ね満足しています	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 障がい児童デイサービスセンターくれよん

公表日 令和7年2月3日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	面積の広いデイルームを確保しており、利用状況に応じて使用している。	居室面積は広いが、部屋ごとに区切られておらず、騒音が苦手の利用者の過ごし場所が必要である。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		シフト表を基に安全な支援ができるよう事前に話し合い、管理者が定期的にチェックしている。	人数的には確保できているが、見守り支援員としてシルバー人材センター派遣員に協力要請している現状となっている。放課後は利用時間が短時間であるため、落ち着いた創作活動ができない現状となっている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		2階のデイルームを中心に活動しているため、エレベーターを活用している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		こどもが帰宅後、玩具や机等の消毒を行い整理整頓された空間を用意している。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		感覚の特性を理解して感覚過敏な子に対し、個別の部屋を用意している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	PDCAサイクルを活用していないが、なるべく毎日話し合うようにしている。	パート職員も含めて、広く職員から意見聴取できる体制を作り実行していく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けに利用に関する感想や要望等のアンケートを実施している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に会議も行い、毎日気付いた事を話し合い業務改善に繋げている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者からの評価は行っていない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修参加の機会を、全職員に回覧等で周知している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページで公表をしている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		会議を開催し、一人一人にあった個別支援計画書を作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		こどもの支援に関わる職員全員の話を聞きながら、最善の利益を考慮した検討を常時行っている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		会議を開催し職員間で共有を行い、計画に沿った支援が行えるようにしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートを活用して、情報を収集している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域に沿った支援課題の設定を行い具体的な支援内容の設定を行っている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで話し合いを行いプログラムを立てている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用者に応じた支援方法を共有し実行している。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々に合わせて活動を適宜組み合わせ計画作成している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		必ず打ち合わせを行い、役割分担の確認を全職員で行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日に支援の振り返りが出来ない場合は翌日の午前中に振り返りを行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		情報共有を徹底し記録を取り、支援の検証や改善に繋げている。	
	23 定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		見直しをする時は支援会議等を行い、合同で判断している。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「地域交流の機会の提供」がほとんどできていないため、今後は積極的に地域交流を図っていきたい。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		利用者に応じた支援方法を実行している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		今後の課題として検討していく。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との情報共有や連絡調整を適切に行い安心して利用できる環境作りをしている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保育所・幼稚園等と連携し児童の理解に努めている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		適切な支援をそれぞれの事業所で提供できるように各関係機関と連携を図り、途切れない支援を行っている。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		個々に沿った支援を行うために必要に応じて専門機関と連携を図っている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		内部の児童クラブとの交流を定期的に計画をしていく。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		場面と方法を配慮しながら伝える様になっている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		保護者からの相談があった時は、専門機関と連携し対応をしていく。
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		内容に変更があった際に随時説明している。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		会議を開催し、その際にこどもや家族の意向を確認して一人一人にあった個別支援計画書を作成している。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		普段から相談しやすい環境づくりに努めている。	
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		今後の課題として検討していく。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情内容や原因を検討して改善に繋げている。	検討しているものの、保護者が納得のいく返答となっておらず、適切に対応していないことも考えられる。
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		夏休みや冬休み前、クリスマス会の案内やお買い物へ出掛ける時等には事前にお知らせを発信している。	
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		職員会議等で定期的に周知徹底を図っている。	
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		カードやボード等を活用し、コミュニケーションがうまく図れるように工夫している。	
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後の課題として検討して行く。
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時対応マニュアルを常時送迎車両に搭載し、また個別にも携帯して頂いている。	
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作がある児童には薬を事前に準備しておき緊急時に対応できる様に職員全員へ共有している。	
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		今後の課題として検討していく。
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		今後の課題として検討していく。
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				